

## 第16回 防災セミナー

### 「阪神・淡路大震災から学ぶこと」を開催

防災委員会

#### ■まえがき

防災委員会では去る7月17日、寒地土木研究所の講堂において、第16回防災セミナー「阪神・淡路大震災から学ぶこと」を開催しました。

今回は「神戸防災技術者の会」から講師を二名招き、行政マンとして経験した震災対応、その後のまちづくり等、北海道の防災を検討する上でも貴重なお話が聞けるものと考え、交通部会と都市部会が企画しました。

以下に、その概要を報告します。

#### 1. 神戸防災技術者の会との交流

今回お招きした二名が所属する「神戸防災技術者の会」通称K-TEC (Kobe Technical Experts Cooperative Association for the prevention against disasters)は、震災経験者である神戸市役所の現役・退職職員など約60名で構成された組織です。

会の目的は、①神戸の震災のことを伝承していくこと、②防災や減災について学んでいくこと、③各地で頻発する自然災害に何らかの支援をしていく

こと等であり、私達の防災委員会の活動と共通する部分のある技術者の集まりです。

K-TECとの交流は、昨年11月に防災委員会都市部会が企画した「防災に関する近畿視察ツアー」で、神戸市を訪問したのがきっかけとなりました。

#### 2. 防災セミナーの内容

##### 2.1 プログラム

- 15:00 開会あいさつ (高宮委員長)
- 15:00~16:30 講演会 (片瀬氏、栗田氏)
- 16:40~17:00 質疑応答
- 18:00 情報交換会 (札幌ビール園)

##### 2.2 参加状況

セミナーへの参加者数は、技術士47名、一般29名、合計76名でした。また、札幌市の危機管理対策室から4名のご参加をいただきました。

##### 2.3 講演者の略歴

###### (1) 片瀬範雄氏

震災発生時は神戸市都市計画局工務課長であり、自宅のある須磨区で被災。その後、2004年3月に中



写真-1 高宮委員長の開会挨拶。「神戸防災技術者の会」との交流は昨年の近畿視察ツアーから。



写真-2 満席の会場。防災行政の関係者も含め、76名の参加がありました。

中央区長を最後に定年退職。現在は(株)パスコ神戸支店技師長。技術士（建設部門）。

(2) 栗田聡也氏

1994年4月、神戸市入庁。震災時は神戸市東灘区で被災。現在、(財)神戸市都市整備公社まちづくりセンター主査。



写真-3 講師の片瀬さん（左）と栗田さん（右）

## 2.4 講演概要

■**震度7 その瞬間**：まさか地震が起きたとは思わなかった。20秒ほど揺れては止まるの繰返し。神戸では土砂災害や水害が重要で地震は他人ごとだった。

■**情報の把握**：大阪はほとんど被害なし。東京には危機感なし。被害が大きいほど情報は伝わらない。技術者の目で見たことを伝える。初めの仕事は被害の全容把握、直営で3日間調査し図面を作成した。

■**救出は誰が**：生埋めになった人の8割は市民による救出。団体や民間による救出体制の整備が必要。

■**被災の状況は**：7割超が家屋倒壊による圧死。昭和初期設計の建造物には被害が少ない。高度成長期は緻密な計算で経済性を追及。

■**公共施設の復旧は**：現場主義（上司の判断不要）で対応。いざという時のために、日頃の協力体制づくりが重要。スピードアップのための専門家活用。

■**神戸まちづくりセンター**：震災を機に存在意義が拡大。復興基金による活動助成。専門家(256名が登録)の派遣、人材育成、情報提供などを行う。

■**四川地震**：動いた面積は日本の国土の1/4。被害額15兆円以上。民間支援を競わせる制度を導入。

## 2.5 質疑応答

■**Q 1. 初動期の情報収集体制は？**

A 1. どこがどのような状況か把握できなかつ

た。役所へ登庁する際、災害の状況など情報収集する、職場の中で出勤計画を話し合っておくこと、GISや衛星写真の活用も有効な手段と考えられる。

■**Q 2. まちづくり活動への助成は防災に限って？**

A 2. コミュニティーづくりのための助成。これが起爆剤となり災害時にも役立つものと考えている。

■**Q 3. 建造物の耐震設計の考え方について？**

A 3. 今ある施設をいかに活用しつつ補強するかが重要。中国の農村部では耐震基準が守られていなかったという噂もあるが、立体的な高速道路が少なく、その分、被害は小さかったようだ。

■**Q 4. 地域リーダー育成のため実行していることは？**

A 4. まちを元に戻したい、という思いから自然発生したリーダー、過去に自治会活動の経験があり地域で推薦されたリーダー、さらには行政に不信感を持つ人が話し合いで選んだ事例もある。



写真-4 熱心なディスカッション。行政マンとしての震災経験に高い関心が向けられる。

## 3. おわりに

第16回防災セミナーに多くのご参加を頂きまして誠にありがとうございました。また、会場使用のご快諾、当日のご協力を頂きました寒地土木研究所の皆様にもお礼申し上げます。当委員会では今後も防災セミナーを企画していきますので、次回もご参加頂けますよう皆様をお願いいたします。

（文責：防災委員会 交通部会幹事 木村 和之）